▼タイトル▼

助動詞　標準

▼問題文▼

空欄に適する語句を選びなさい。

▼小問▼

Tom ［　　　］ golf in the past, but he no longer does so.  
  
（愛知学院大）

▼選択肢▼

① is used to play

② is used to playing

T③ used to play

④ used to playing

▼解説▼

解答：③  
【設問の解説】  
「トムはかつてゴルフをしていたが今はもうしていない。」  
現在と対比して「（以前は）～だった（が、今はちがう）」という意味はused toで表す。類似表現のwould (often)には、この意味はないので要注意。  
なお、used toの形を含む表現には、区別が紛らわしいものがあるので注意しよう。  
used to do「（以前は）よく～したものだった／（以前は）～だった（が、今はちがう）」→助動詞  
be used to doing「～することに慣れている」→このusedは形容詞  
be used to do「～するために使われる」→不定詞の副詞的用法を使った受動態の文

▼問題文▼

空欄に適する語句を選びなさい。

▼小問▼

I have had no news from you for a long time. You ［　　　］.  
  
（大妻女子大）

▼選択肢▼

① didn’t have to write to me

② must have written to me

T③ should have written to me

④ used not to write to me

▼解説▼

解答：③  
【設問の解説】  
「ずいぶん連絡がなかったじゃないか。手紙くらい寄こしてくれればよかったのに。」  
１文目の「ずいぶん知らせがなかった」と文意が合うのは、should have done「～すべきだったのに（実際はしなかった）」。  
① didn’t have to do「～する必要はなかった」  
② must have done「～したにちがいない」  
③ used not to do「（以前は）～しなかった」  
have no news from 〜「〜の連絡〔便り〕がない」

▼問題文▼

文法・語法上の誤りのある箇所を１つ選びなさい。

▼小問▼

一生懸命やったが、地下室へ通じるドアはどうしても開かなかった。  
①Although I tried hard, the door ②to the basement ③couldn’t ④open.  
  
（岡山理科大）

▼選択肢▼

①

②

T③

④

▼解説▼

解答：④ → wouldn’t  
【設問の解説】  
「（なかなか）～しようとしない〔しなかった〕」はwill[would] not doで表し、refuse(d) to do「〜するのを拒絶する」とほぼ同じ意味。**主語の強い意志**を表す助動詞willの用法だが、助動詞can[could]にこの用法はない。

▼問題文▼

空欄に適する語句を選びなさい。

▼小問▼

It is essential that they ［　　　］ understand.  
  
（金城学院大）

▼選択肢▼

① shall

T② should

③ will

④ would

▼解説▼

解答：②  
【設問の解説】  
「彼らが理解することは必要不可欠である。」  
〈It is＋形容詞＋that S V 〜〉「〜するのは…だ」という文で、necessaryのような**必要**・**要求**を表す形容詞が入るときは、that節のなかは原則的に〈S (should)＋原形〉という形にする。shouldを省略して〈S＋原形〉という形になることもある。  
〈It was＋形容詞＋that S V 〜〉という過去の文で合っても、〈S (should)＋原形〉や〈S＋原形〉の形は変わらないことにも注意。

▼問題文▼

空欄に適する語句を選びなさい。

▼小問▼

I ［　　　］ talk about it.  
  
（白百合女子大）

▼選択肢▼

① not would rather

② would not rather

③ would not rather to

T④ would rather not

▼解説▼

解答：④  
【設問の解説】  
「私はそのことについて話したくない。」  
would rather do「（むしろ）〜したい」の否定形は語順に注意。would ratherを１つのかたまりと考えて直後にnotをつけ、would rather not do「（むしろ）〜したくない」という形で表す。

▼問題文▼

空欄に適する語句を選びなさい。

▼小問▼

I ［　　　］ to Tracy before she left for Boston, but I didn’t.  
  
（高知大）

▼選択肢▼

① may well talk

② may as well talk

③ must have talked

T④ should have talked

▼解説▼

解答：①  
【設問の解説】  
「トレイシーがボストンへ発つ前に彼女と話すべきだったのに、私は話さなかった。」  
should[ought to] have doneは「〜すべきだったのに（実際はしなかった）」という意味。文の後半のbut I didn’t「だが、私はしなかった（＝話さなかった）」に注目。  
① may well talk「話すのはもっともだ」  
② may as well talk「話したほうがいい」  
③ must have talked「話したにちがいない」

▼問題文▼

文法・語法上の誤りのある箇所を１つ選びなさい

▼小問▼

I ①missed the bus and was ②late for class ③on the first day of school. I ④should have left home earlier next time.  
  
（静岡大）

▼選択肢▼

①

②

③

T④

▼解説▼

解答：④ → should leave  
【設問の解説】  
「バスに乗り遅れて登校初日から授業に遅刻した。次はもっと早く家を出たほうがいい。」  
should have doneは「〜すべきだったのに（実際はしなかった）」という意味で、過去の行為に対する**後悔**を表す。本問では、文末にnext time「次からは」とあり、未来に向けた**義務**・**忠告**を表す内容なので、完了形ではなくshould do「〜するべきだ／〜したほうがいい」という形にする。

▼問題文▼

空欄に適する語句を選びなさい。

▼小問▼

When I arrived at the meeting, there was nobody here. It had been cancelled. I ［　　　］.  
  
（玉川大）

▼選択肢▼

① needed to go

② didn’t like to go

③ cannot have gone

T④ needn’t have gone

▼解説▼

解答：④  
【設問の解説】  
「会議の場に到着すると、そこには誰もいなかった。会議は中止になっていた。行く必要なんかなかったのだ。」  
need not[needn’t] have done「～する必要はなかったのに（実際はしてしまった）」を使う。助動詞needは、原則として**否定文**または**疑問文**で使われる。  
need not[needn’t] do〜「〜する必要はない」  
Need S do〜 ?「Sは〜する必要がありますか」  
本問は、さらに完了形といっしょに使うことで過去の行為に対する後悔を表している。  
cannot have done「～したはずがない」

▼問題文▼

空欄に適する語句を選びなさい。

▼小問▼

I’m awfully sorry, but I had no alternative. I simply ［　　　］ what I did.  
  
（山梨大）

▼選択肢▼

① ought to have done

② must do

T③ had to do

④ have had to do

▼解説▼

解答：③  
【設問の解説】  
「たいへん申しわけありませんが、しかたなかったんです。ただああするしかありませんでした。」  
文意から、前文のI had no alternative. と時制をそろえる必要があるので、②④は時制が合わない。①はought to have done「～すべきだったのに（実際にはしなかった）」という意味で、「自分のしたことをすべきだったのに」という不自然な文になるので不適切。have to do「〜しなければならない」の過去形had to doであれば、文意に合う。

▼問題文▼

空欄に適する語句を選びなさい。

▼小問▼

I could not ［　　　］ worry about my daughter.  
  
（－）

▼選択肢▼

① help

T② but

③ too

④ much

▼解説▼

解答：②  
【設問の解説】  
「私は娘のことを心配せずにいられなかった。」  
cannot[can’t] but do「〜せざるを得ない」は、助動詞を使った慣用表現なので、このままの形でしっかり覚えておこう。なお、cannot[can’t]を使った類似表現がいくつかあるが、butのあとは動詞の原形がつづくことに注意。  
cannot[can’t] but do「〜せざるを得ない」

＝ cannot[can’t] help but do  
＝ cannot[can’t] help doing